

稲美町総合教育会議 会議録

(令和7年度第1回)

1 開催日時 令和7年10月23日(木) 開会 13時30分
閉会 15時12分

2 開催場所 稲美町役場303会議室

3 会議に付した事項

1. 開会

2. あいさつ

3. 協議・調整事項

- (1) ①中学校部活動の地域展開について
- ②稲美町立幼稚園の今後のあり方について
- ③稲美町史編さん事業について

(2) 自由討議

4. その他

5. 閉会

4 構 成 員

稲 美 町 長	中 山 哲 郎
稲美町教育委員会 教育長	北 谷 錦 也
稲美町教育委員会 教育長職務代理者	後 藤 哲 夫
稲美町教育委員会 教育委員	本 多 澄 子
稲美町教育委員会 教育委員	高 田 道 夫
稲美町教育委員会 教育委員	松 田 緑

5 事 務 局

経 営 政 策 部 長	松 岡 敦 司
経営政策部企画課長	松 浪 亨
教 育 政 策 部 長	井 上 勝 詞
生涯学習担当部長	沼 田 弘
教育政策部教育課長	稲 葉 寛
教育政策部教育課学校教育担当課長	加 藤 彰 一
教育政策部教育課管理担当課長	前 田 浩 二
教育政策部人権教育課長	松 尾 恵 宏
教育政策部生涯学習課長	赤 松 嘉 彦
教育政策部生涯学習課スポーツ担当課長	中 澤 秀 俊
教育政策部文化の森課長	西 本 竜 也

6 開 会

司会(松岡経営政策部長)

それでは定刻となりましたので、只今から令和7年度第1回稲美町総合教育会議を開催いたします。

私は、本日の進行を務めさせていただきます、経営政策部長の松岡でございます。

この会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4の規定により、地方公共団体の長が設ける会議でございます。

なお、会議内容等の詳細につきましては、後ほどご説明いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

はじめに、中山町長からごあいさつをお願いいたします。

中山町長

皆さん、こんにちは。町長の中山でございます。

教育総合会議にお集まりいただきありがとうございます。

そして平素は、委員の皆様におかれましては、子どもたちの教育の充実、発展、また、芸術文化等もご尽力いただいておりますことを感謝申し上げます。

先日まですごく暑かったのですが、涼しくなって参りました。2学期は、子どもたちも運動会があったり、文化祭があったり、修学旅行に行ったりという形で、現場の先生方はとても大変ですが、その分、クラスが団結をし、子どもたちが成長する本当に意義がある大切な時期だと思います。

先日テレビを見ていると、インドネシアには運動会がないそうです。日本の大学と連携して、日本で当たり前であるような玉入れとか、綱引きとかをすると、クラスがまとまる

というか、私たちにとって当たり前だったことが、外国に行くと少し違うというか、改めて日本の文化や教育の大切さを感じました。いろいろな課題が教育現場にもあるわけですが、そういったところをしっかりと町長部局と教育委員会とが連携をしながら進めていくというのがこの会議でございます。

本日は、様々な課題についてご報告をさせていただきながら、ご意見を頂戴したいと思います。自由討議の時間を設けておりますので、その場でいろんなお話ができたらなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、挨拶に代えさせていただきます。

司会（松岡経営政策部長）

ありがとうございました。

続きまして、北谷教育長、ごあいさつをお願いいたします。

北谷教育長

皆さん、こんにちは。まず中山町長におかれましては、教育について、このように意見交換する場を設けていただき、ありがとうございます。また、教育委員の皆さんにはお忙しい中、ご出席賜り誠にありがとうございます。

本当についこの前までは、熱中症が心配だと話をしたら、急に季節が進みまして、寒いかなと感じられるような本当に良い季節になってきました。

先ほど町長からもお話があったように、町内の各地域行事や中学校、小学校、幼稚園の方では、運動会、体育祭、文化祭等多くの行事が、この良い気候のもと行われております。

週末の天気が、雨が降るといような心配もあったのですが、今日、稲美北中学校では文化祭が行われまして、両中学校の文化祭、体育祭、そして幼稚園、小学校の運動会が無事に終わりました。また、町内各小学校の6年生の修学旅行も、無事に10月の中旬に終わっております。子どもたちは、本当に良い経験をしてくれたものと非常に喜んでおります。

また、私は、先週、母里小学校と加古小学校の運動会に参加させていただきました。両中学校の体育祭では、子どもたちが非常に良い表情で行事に取り組んでいるということ、先生方の普段の取組とともに子どもたちの頑張り、それから地域の方の支えが、子どもたちの表情に表れているんだらうなということを非常にうれしく思ったと同時に、小学校の運動会ではコミュニティ・スクールを中心に地域演技ということで、地域の方が多く参加する演技がありました。テントの下で、教育委員の皆さんと始まる前に少し話をしていたのですが、私がシニアの方に、「頑張られたんですね。」と声をかけると、「いやあ、もう出てくれって頼まれたから仕方なしです。」と言いながら、非常に喜ばれていました。子どもたちと先生方だけの行事だけではなくて、地域の方と一緒にやるような行事がこれからは進んでいったらと願っております。

今日、議題としましては、部活動の地域展開から、町立幼稚園の今後のあり方、そして、

町制70年を記念として、数年前から編さんをしている稲美町史について、またその他いろんな課題について意見交換をさせていただきます。子どもたち、あるいは教育を取り巻く状況、そして子どもたちだけではなくて私たちの周りも、随分、社会が変わってきています。その中で新たな課題が出てきています。その課題に対してしっかりと対応し、子どもたちの学校教育が、そして、町民の皆さんのスポーツや文化活動、生涯学習がさらに進む、そういうきっかけになるかと思いますので、皆さんのご協力をお願いしまして、私の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

司会(松岡経営政策部長)

ありがとうございました。

本日の会議の出席者は、お手元の「令和7年度 第1回稲美町総合教育会議出席者名簿」のとおりでございます。

会議の構成員は、町長と教育委員会委員の皆様で、事務局は企画課と教育課、人権教育課、生涯学習課、文化の森課が担いますので、よろしくお願いいたします。

当会議の議長は、稲美町総合教育会議規則第4条の規定により、町長が務めることとなっております。また、この会議は、同規則の規定により原則公開し、議事録を作成いたします。

それでは、町長に会議の進行をお願いいたします。

中山町長

規則に基づき、議長を務めさせていただきたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

最初に、本日の会議の傍聴を希望する者が7名ありますが、稲美町総合教育会議規則第9条の規定により、許可することとしてよろしいか、お諮りします。

教育委員

異議なし。

中山町長

ありがとうございます。それでは、稲美町総合教育会議規則第9条の規定に基づき、傍聴を許可することといたします。

それでは、令和7年度 第1回稲美町総合教育会議次第の3. 協議・調整事項について進めてまいります。

まず最初に、(1)①「中学校部活動の地域展開について」の説明を事務局からお願いいたします。

加藤学校教育担当課長 (資料説明省略)

中山町長

「中学校部活動の地域展開について」の説明がありました。これについて、ご意見があればお願いします。

高田教育委員

この2、3年、取り組んでこられた結果として、非常にコンパクトにまとめられた資料で安心しております。この資料で言うと、2028年いなチャレ開始、そろって進める日程が書かれているのですが、募集にいろんな団体が応募できると書いてあります。実際に応募できるのは、例えば、1年前とか、あるいは2、3種目で先行実施と書いてあります。2026年と書いてありますので、そろそろ募集を始めるのでしょうか。そのあたりのスケジュール的なことが決まっていれば、教えていただきたいと思います。

加藤学校教育担当課長

まず募集の方法につきましては、現在協議会の中で、募集要項の策定に向けた協議をしているところですので、募集の内容につきましては、明確には決まっていないところです。

ただ、来年度先行実施をしていく種目が、数種目あると書かせていただいている内容については、現在、すでに地域の方と子どもたちが活動している部活動の種目が数種目ございますので、その辺から順番に、先行して地域へ展開していこうと考えております。

後藤教育委員

中学生13歳から15歳までの年齢にとって、仲間と一緒にやりたいスポーツとか文化活動を2年半ぐらい3年生の夏までなので、2年半ほどできるということは非常に大きな意義があったと思います。教室での学習プラス部活動で学ぶこと、どちらも同じぐらいの重さがあるのではないかと思います。特に部活動で、いろんな人間関係とか、成功体験とか失敗体験、それを通して学んだことというのは、その生徒の人生にとって大きな影響を与える内容であったと思います。

それが今度、実施主体が変わっていくということで、小学校からも参加可能と聞いているのですが、これからも子どもたちが、13歳になったらみんなそこでやりたいところを選んで、勉強以外でそこで成長できるという組織も、これから確実に1歩ずつ作っていったって、稲美町の子どもたちに用意できるという形をぜひ慎重に作り上げていただきたいと思います。非常に意義深い活動だと思いますので、その辺りの構築をしっかりとよろしくお願いしたいと思います。

加藤学校教育担当課長

現在学校の中で、学校部活動が果たしている役割というのは、我々も強く認識をしているところです。その中で子どもたちが仲間づくりを通して、人生をどういうふうに切り開いていくのかという力を培っているというのは、貴重な機会だと考えております。

このいなチャレの活動に関しましても、この思いが継承していけるように、しっかりと実施団体と教育委員会で話をしながら、また研修も重ねながら、こちらの思いをしっかりと伝えていきたいと考えております。

北谷教育長

今、事務局から今後のスケジュールも含めた方針について、説明をしていただきました。実際に進むとなると確かに多くの課題があります。一番心配しているというか、多分地域の皆さん、保護者の皆さんも、不安に思われているのが、今、後藤委員が言われたようなことを今まで学校部活動が果たしてきた役割が、継承されるのかということです。これについては教育委員会としても、このいなみチャレンジクラブの中で一番大切にしていきたいことだと思っています。

ただ、学校部活動では、どうしても学校ごとの活動、その学校の枠を越えて、それから、生徒の皆さん、子どもたちと先生の活動、あるいはそれを支援する保護者の皆さんとの活動、そこに限定されているのをもっと広げることによって、子どもたちが多くの人と出会い、そして、多くの交流をし、様々なことを学んで欲しいなという思いがあります。そして競技力とか、あるいは技術の向上だけではなくて、スポーツや文化活動というのは、私たちにとって人生を豊かにしてくれるものですので、子どもたちにとっても、同じことだと思います。部活動のスポーツを楽しむ、あるいは芸術を楽しむ、その中で、それぞれの、夢とか希望に合った活動ができるような幅広いものにしていきたいなと思っています。そのためには、学校の先生方だけでは、限界がありますので、多くの方にご協力をいただいて、どれだけこれに参加していただけるか、ちょっと見えないところはあるのですが、委員会としては周知に努めて、子どもたちの活動の充実につなげていきたいと思っています。

そのための試行としては、来年度に2、3種目、その次の年は、それをさらに増やして、5つか6つの種目でということになると、これに関しては、今学校でやっている活動の中で、子どもたちがイメージしやすい、地域の方もイメージしやすいものから、成功例を作っていく、さらに広めていけるようにしようと思っています。

募集は、実際に2028年度に始めるとしたら、その1年ぐらい前には、募集も始めて、あるいはお願いをしていかなければいけないと思っています。それに向けた募集要項については、協議会の協力を得て、目標としては今年度中に募集要項を作ることが出来ればと思っていますが、それに向けた準備を今、事務局としても進めているところです。また皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。

高田教育委員

今、教育長のお話の中で、希望に沿った幅広いやり方という言葉があったのですが、特に野球とか剣道とか、勝つことを目指すスポーツというのは、それに合った指導と野球を楽しみたい、剣道を楽しみたい、そういう人は、指導の受け方が、当然今の学校でのクラブ活動も難しいことがあろうかと思います。地域の方々に指導を委ねることによって、その辺りのうまくやるやり方というか、十分に話し合っていていただいて、過剰な指導で怪我を負ったり、登校できなくなったりということがないように、準備をお願いしたいと思います。

北谷教育長

教育委員会の事務局としては、まずは、今、多くの子どもたちの活動の幅が広がるように、参加してくれる方、地域の方、子どもたちへの周知に努めているところです。併せて、例えば、いなみチャレンジクラブができ上がりました。後は、皆さんでやってくださいね、というつもりではありません。

参加する子どもたち、あるいは保護者の皆さんの相談窓口も作ろうと思っていますし、もちろん実施していただくクラブの相談も受けていきます。そして、成長期の子どもたちですので、これは体だけではなくて、心の部分も成長していきます。そのためにはどのような指導が効果的なものか、あるいは気をつけなければいけないところはどこなのか、指導者に対する研修会とか、あるいはお互いの情報交換という会も、教育委員会がリードして進めていきたいと思っています。

中山町長

続いて、②「稲美町立幼稚園の今後のあり方について」の説明を事務局からお願いします。

前田管理担当課長 (資料説明省略)

中山町長

「稲美町立幼稚園の今後のあり方について」の説明がありました。これについて、ご意見があればお願いします。

高田教育委員

今後のあり方についてという資料の4ページです。(4)、(5)、(6)、(7)とありまして、(5)特別な支援が必要な就学前児童数の増加の割合を見ると、令和2年で20.2%、令和6年で26.3%、これはそういう子どもが増えて、率が増えているのですが、私的には、今から数年前は、そういうことはわからなかったのかなと思うのですが、いずれにしても、5人に1人が4人に1人になっているということで、私は、授業を見学させていただいて、みん

な一生懸命楽しんで学んでいたという安心感を持っていたのですが、このような率である
と、この特別な支援というのは、具体的にはどういうことをされているのでしょうか。

前田管理担当課長

対象となる園児一人一人によって、特徴が変わってきますので、担任1人が、1人で複数の
の園児を見ていますので、なかなか目の行き届かないところがあり、対応が難しいところ
です。特別支援教育指導補助員に、中に入っていて、その子に合った対応をしてい
ただいています。例えば、視覚的な伝え方をするとか、そういったこともしていますし、
その子だけを見るというわけではなく、他の園児との繋がりを補助するような役割という
のも、特別支援教育指導補助員の方にはなっています。

中山町長

幼稚園の場合は、クラスは1つでしょうか。

前田管理担当課長

はい。例えば、小・中学校でいうところの特別支援学級という意味合いだと、幼稚園に
つきましては、そういったクラス分けは行っておりませんので、同じクラスの中で同じよ
うな活動しております。

北谷教育長

高田委員ともよく一緒に各幼稚園を見に行かせてもらうのですが、私は中学校現場が長
くて、幼稚園を見て思ったことが、今、私たちが目指しているインクルーシブ教育という
のが、幼稚園で実行されているなというか、進んでいるなという印象を持ちました。

それをリードしていただいているのが担任の先生であり、またその補助員の方が、先ほ
ど事務局が説明しましたように、例えば、支援をしなければいけないのもあります。お子
さんの中には、身体に障害があったりするお子さんもいらっしゃいますし、ただそういう
お子さんに対しても、周りの同じ3歳、4歳の子がここまでできるのかというぐらい、その
周りの子が一緒に、その繋がりを、その関係性を、補助していただいている、そういう意
味では、私たちが目指すべきインクルーシブな教育が、幼稚園の中でやっていただしてい
ることに感謝しております。

中山町長

あと1点、これは町立幼稚園の数字なので、おそらく、町全体の数字ではないですね。

前田管理担当課長

こちらの(5)にある数字につきましては、あくまで幼稚園在園の園児数ということにな

ります。

本多教育委員

幼稚園給食についてですが、幼稚園の時のお弁当はとても小さくてほんの少しなのですが、その持つ良さというのをやっとながら我が子が高校生になって感じています。もちろん保護者支援という観点からすると、給食というのは有難いことなのですが、幼稚園の間のわずかな期間のお弁当の良さというのも考えていただけたらと思います。食育に関して慎重に考えていただけたらと思います。

前田管理担当課長

ニーズ調査を行った中では、稲美町の幼稚園に期待することということで、給食の実施というのが一番多い要望ではございました。給食を実施する中で、食育という活動は給食が始まったら、さらにまた進めていく必要があると思います。食育というのは子どもにだけしていくものではなく、ご家庭の方にも広めていくものなのかなと思います。そういった中で、お弁当は、保護者の方が愛情を持って作られている、お子さんに向けて愛情をかけているという、それが形になったものだと思うのですが、それはお弁当という形ではなくなるかもしれないですが、家庭の中でそういったことを推進していくようなことを進められたらいいなと考えております。

北谷教育長

私は、学校現場にいた時に、ちょうど中学校給食の導入の時期に携わらせていただいて、同じような議論がありました。

給食ができることは、親御さんの負担が減っていいのだけど、お弁当を作ってあげられる時期というのは、お弁当だけではないのですが、親御さんの愛情というのがあって、実際に始めてみて、学校給食に変わったからと言って、逆にそういう面よりは食育の部分で、どうしてもお弁当だと子どもたちの好きなものばかりになってしまうんですが、学校給食だと地域のいろんな食材も含めて、また給食でみんなと一緒に食べていると、苦手だったものもおいしいと言って食べられるようになったり、またそれを栄養教諭の先生や調理員の皆さんが、食育という時間をとっていただいて進めていきます。またそのお話が家庭に入って、子どもたちと親御さんとの間で話されて、幼稚園に関して、子どもたちの発達段階の違いもあるかもしれませんが、それと1つ考えられるのは、お母さん方、私たちをめぐる社会環境というのが、変わりまして、男女共同参画ということで、女性の皆さんの社会参画が、私は非常に進んだことはいいことだと思うんです。その部分をお母さん方、お母さんだけではなくお父さんもですが、支援をしていくことも必要ですし、そういう意味では、幼稚園給食を進めることができたかなと思っておりますし、ただ単に給食で、家庭支援、保護者支援だけではなくて、それによって稲美町の子どもたちの食育というか、健

康増進に繋がるような、そういう取り組みにできたらと思っています。そういう夢はあるんですが、いろんな課題があり、これを早く実現できたらと思います。

中山町長

稲美町の学校給食は、本当においしいよという高評価をいただいております。だからこそ、より小さな幼稚園のときから味覚が形成される時期、良いものを食べていただいて、食育も含めて、その辺は保護者の方も一緒になって、学んでいただければ良いなと思います。

ただ先ほどお話があったとおり、どうしても実施をする上で、どんな方式であったり、どのようにやるかというところで、少し検討の余地がありますので、これは早くしたいという思いはあるのですが、その辺、お金もかかることですので、どういう方向でいくのかということを決めていきたいなと思います。

高田教育委員

資料の8ページと10ページの地図と数字と棒グラフを見ると、再編の方向性というのは、避けられない話だなと思います。幼稚園の再編も大事なのですが、今、加古地区の上新田の郵便局あたりで、住宅がどんどん建っていて、嬉しく思っています。八軒屋のあたりでも新しい家が建っています。幼稚園の再編を進めていただくとともに、加古地区のように新しい家が建っている、都市計画が進んでおりますが、再編とともに家が増えるようにお願いしたいと思っています。

中山町長

市街化調整区域であっても、市街化区域と同じように、稲美町で生まれ育った方が家が建てやすくなるような規制緩和を行っているところです。

幼稚園のあり方は、再編もそうですが、稲美町が住みやすくなる規制緩和もあわせて進めているところです。

後藤教育委員

幼稚園の教育の現状については、私らも実際に、計画をして授業を見せてもらっているのですが、人数がどんどん減っているということで、4歳児、5歳児、一緒に1つのクラスとして、異年齢保育という指導を進めていच्छやいます。

感想としては、子どもたちも年齢が1つ違うだけですが、少し上と少し下ということで、10人前後の集団ですが、上の子は、お兄ちゃん、お姉ちゃんらしくしようという意識で、下の子は、そういう上の子に憧れを持って見ているという、そのような状況があり、先生方もそういう集団を指導していくのに非常に慣れておられる。

そういう子どもたちの心理的なものを非常にうまく使って、上の子を前に立てて、お兄

ちゃん、お姉ちゃんの活躍の場を与えるというような指導が、非常によく見られました。

しかし、今、そういう異年齢でやられていても、それが2つの学級を合わせても、5人、6人に満たない。3人、4人になった場合は、非常に難しいので、今再編ということが出てきています。

今、幼稚園の先生方も、非常に頑張られて成果も上げておられると思うのですが、検討委員会の中で、現場の声としても、5人、6人をさらに下回るようでは、そういう集団的な指導が難しいという意見でまとめられているのでしょうか。

前田管理担当課長

あり方検討委員会で、人数が少なくなっている中での異年齢教育については、ある程度の集団でないと集団教育の質というのを保つには難しく、少なくとも6人ぐらいはいると意見されました。例えば、3人と3人でチームを作ったり、2人と2人でチーム作る。そのようなチーム作りをしながら進めていくカリキュラムだと、6人程度は必要になるかなと思います。そういったご意見を踏まえて、集団教育を行っていく中での最低人数というラインになるのかなと思います。

松田教育委員

4ページの先ほどもお話が出たかと思うのですが、(5)特別な支援が必要な方ということで、最近はインクルーシブ教育というのを進めていращやと思うのですが、幼稚園でも、年々、支援が必要な方が増えているということで、これはもちろん幼稚園だけではなくて、小学校に入っても同じことで、小さい頃というのは本当に発達の段階に差がすごくあるなということを視察させていただいても感じます。小学校においても、1クラスに1人の先生だけではなくて、もう1人先生がついてくださったり、例えば、それが難しいのであれば、その学年の先生の人数を少し増やしていただくと、視察に行かせていただいても、クラスに1人の先生だけよりかは、もう1人入られていると、すごく安定しているような感じがするので、そういったことも、幼稚園に限らず、今後の発達段階に応じて、小学校においても、特別支援のあり方を少し考えていただけたらと思います。

あとは、幼稚園における預かり保育についてですが、保育所に預けられる方がすごく増えていて、幼稚園の人数が増えないというところで、給食もそうですが、定例会議のときにもお聞きしたかもしれませんが、預かり保育の時間がやはり短いと感じます。例えば、8時から預けられて、夕方6時ぐらいまでは見ていただけるような制度があれば、もしかしたら、保育所ではなくて、幼稚園の方に切り替えようとお考えになる保護者も増えてくるかもしれませんので、そういったところもご検討いただければと思います。

加藤学校教育担当課長

小・中学校の特別支援教育に関して、各教室に様々なお子さんがいらっしゃるので、先

ほど、幼稚園の方でもお話をさせていただいた特別支援教育指導補助員の方も、配置をさせていただきながら、各教室をどのように支援していかなければならないのか、学校で計画的に進めていきたいというふうに考えております。

前田管理担当課長

預かり保育の時間については、保護者のニーズを確認しながら、幼稚園再編とあわせて、検討していきたいと考えています。

北谷教育長

先ほどの人数で20%とか26%の数字を見ると、多くの方が驚かれると思うのですが、確かに特別な支援を必要とする園児、あるいは児童生徒は増えているのは事実です。ただそれは、子どもが減っているのに、その割合が増えているのはなぜかというところ、子どもの困り感に対する教職員、私たちの認識が高くなったからです。今まで見過ごされていた困り感に気が付いて、この子にはこういう支援が必要というところがしっかりと見ていただけるようになったのが、この数字に表れていると思います。それに対して委員の言われるように、もちろん、人の配置が必要です。町長の方からは言いにくいと思いますが私が言うと、稲美町の場合、他市町に比べると、たくさんの補助員を配置していただいています。特別支援に関する補助員だけではなくて、日本語の支援が必要な子どもたち、あるいは登校に支援が必要な子どもたちに対する相談員であったりとか、そういうそれぞれ配置された相談員とか、指導補助員の人たち、あるいは先生方と協力して、さらに、手厚くいろんな方向から子どもたちを見ていこうという取組をしていただいています。

先ほどの異年齢保育も「随分進んだね」と後藤委員からもありましたが、本当に小学校、中学校もそうですが、幼稚園の先生方の努力には頭が下がります。

園によっては、今年3歳で入られた子どもたちの3分の2が、まだおむつが取れていないという状況でした。幼稚園の先生も、園長先生も走り回っていました。それが1学期の終わりになると、随分落ち着いて、逆にその子たちがお互いに協力し合うような場面も見せていただいて、もちろんこれには保護者のご協力もあったと思うのですが、園長先生を中心に幼稚園の先生方、あるいは補助員の先生方、これは小・中学校でも同じだと思うのですが、その連携の賜物だと思っています。手前味噌になりますが、子どもたちはもちろんですが、頑張っていただいている教職員の皆さんは、私にとっては稲美町の大きな宝だと思っています。

中山町長

続いて、③「稲美町史編さん事業について」の説明を事務局からお願いします。

赤松生涯学習課長

(資料説明省略)

中山町長

「稲美町史編さん事業について」の説明がありました。これについて、ご意見があればお願いします。

高田教育委員

私も町史編さん委員として関わっておりますので、質問というよりは、先ほどの説明の補足をさせていただきたいと思います。

従来の稲美町史は非常に立派な分厚いもので、稲美町のほとんどのお家の押し入れにあるはずです。私もしっかり読み出したのは、退職して60代ぐらいからです。今から7、8年前ぐらいから、例えば加古小学校で疎水の授業に来てほしいなどの依頼があって、しっかり読んでおこうということで、分厚いやつを読み出したわけです。私はそういう目的があったので、一生懸命読んで付箋もいっぱい貼って、勉強になりましたが、普通の人が取って読めるかというと、なかなか難しいのではないかと思います。非常に詳しく書いてありました。詳し過ぎる場合もありました。

稲美町は、加古、母里、天満で、それぞれ成り立ちが違いますので、その歴史を讀んでいこうとすると、例えば天満のことがあったり、母里のことがあったりで、加古はあんまり出てきませんが、江戸時代になって本格的に加古が出てきます。読んでいくまでに、それぞれの地域の人、この流れがあまりわからなかったそうです。それで、途中で挫折するという弊害をなくそうということで3分冊になりました。

例えば、日本史の教科書を読むのが好きな人とそうではない人がいますが、日本史は、誰が権力を握ったとか、常に主要な場面ごとに書いてあるので、読みやすいと思うのですが、稲美町の場合はそうではない。それをそれぞれの地区の人が読みやすいようにするというのが一番の目的です。ただ、それで面白かっただけではダメなので、学者の方々がきちんとした資料に基づいて、歴史をベースとした「通史編」や「史料編」ということで、ちゃんと調べたいという人は、この「通史編」や「史料編」を讀んでいただけたらと思います。そういう各個人に合った形を目指しています。

中山町長

続いて、(2)「自由討議」に入らせていただきます。

後藤教育委員

いなみ野体育センター空調設備設置事業及びスケートボードパークの設置について、進捗状況はどのようになっていますか。

中山町長

いなみ野体育センターの空調設備については、7月から工事が始まり、順調に工事が進めば、来年の夏ごろには快適な環境でスポーツが楽しめるようになる予定です。また、スケートボードパークをはじめとしたアーバンスポーツ施設については、国からの交付金の関係で少し工事の開始が遅れていましたが、順調に工事がすすめば、令和8年4月から5月頃の完成予定となっています。

中澤スポーツ担当課長

いなみ野体育センター空調設備設置工事については、7月17日に契約を締結して工事を進めています。完成時期については、最新の工程会議では、年度内に完成するのではないかという話も聞いており、順調に進んでいます。設置を予定している空調設備については、壁輻射式空調と呼ばれているもので、風がほとんど出ないために、卓球やバドミントン、ショートテニスといった風の影響を受けやすいスポーツでも、快適に使用できるものとなっています。

また、アーバンスポーツ施設については、21のセクションがあるスケートボードパークをはじめ、3人制のバスケットボールの3×3(スリーエックススリー)コート2面、テニス壁打ちやボール遊びができるエリアの3つのエリアで構成されていて、完成すれば、多くの若者たちが集まり、スポーツを通じた交流が広がる施設になるのではと期待しています。

後藤教育委員

空調設備が設置されると、夏期でも熱中症を気にすることなくスポーツを楽しむことができると思いますが、空調を使用された場合の使用料はかかるのでしょうか。

中澤スポーツ担当課長

空調の使用料については、スポーツ施設の使用料に空調の使用料を加算することを検討しています。体育館には仕切りがなく、一部だけの空調使用ができないため、現在考えているのは、6月から9月までを夏季料金として、施設使用料と空調使用料のセット料金をいただくことを考えています。

後藤教育委員

空調が使えることにより、夏場でも快適にスポーツを楽しめるのはありがたいですが、あまり負担増にならないように使用料の設定をお願いしたいです。

中澤スポーツ担当課長

町のスポーツ施設の使用料の変更をする必要があるのですが、原則として受益者負担という考え方もふまえて、十分に検討した上で、見直しを行っていきたいと考えています。

中山町長

どうしても光熱水費がかかりますので、受益者負担の原則もありますが、なるべく大きな負担増にならないように検討していきたいと考えています。

後藤教育委員

スポーツ施設の使用料に関連して、アーバンスポーツ施設については、使用料は設定される予定ですか。

中澤スポーツ担当課長

アーバンスポーツ施設につきましては、加古川市でも原則無料ということを知っていますので、現在のところ使用料を徴収することは考えておりません。ただし、その利用人数を把握したり、スケートボードパークについては、ケガ等の危険性のある施設ですので、利用に際しての誓約書を書いていただくなどのルール作りが必要と考えています。また、施設全体を占有して使用する、時間貸しであったり半日であったり、まとまった期間を占有して使用したり、そこでまた教室を開くといった場合には、使用料金を支払っていただくということで検討しているところです。いずれにしても、施設の設置工事と並行して、稲美町スケートボード協会と協議をしながら、ルール作りを進めていきたいと考えております。

後藤教育委員

1年ほど前に、日岡公園の中に、スケートボードパークができていて、それと同じような規模が稲美町にもできるのかと大変期待をしております。土日に日岡公園を見ると、本当に老若男女が入り混じって、みんな楽しんでいるのが、これからのスポーツのあり方の見本を見ているような感じです。稲美町にもそのような景色ができるかと思うと楽しみです。

中山町長

本当にそのとおりで、誰でも気軽にできる場所という形になればいいなと思います。あそこに行ったら、お兄ちゃんが教えてくれるとか、一緒にやろうというような施設になればと思います。

本多教育委員

小中学校の体育館の空調設備設置については、どのような状況ですか。また、蛍光灯の生産が中止されると聞きましたが、学校の照明設備の状況はどうなっていますか。

前田管理担当課長

まず、学校施設の体育館の空調設備の設置については、9月議会で設計委託費の補正予算を計上したところです。財源については緊急防災・減災事業債を活用します。

電気、ガスといった動力源や設置する空調設備の種類については、設計の中で検討する予定です。

次に、学校施設の照明設備について、体育館の照明器具は令和7年度までにすべてLED照明に更新しています。一方、校舎については、校舎の大規模改修にあわせてLED照明に更新したところもありますが、蛍光灯を使用している校舎も残っています。蛍光灯については、令和9年度末の規制後以降についても、継続使用や在庫の売買及びその使用は可能となっていますが、全ての学校施設について令和9年度末までにLED照明への更新を目指したいと考えています。

中山町長

この小・中学校の体育館のエアコンについては、住民の皆さんとか、それから議員の皆さんからもご意見をいただきましたし、8月にこども議会を開催したのですが、そのときにもこども議員からもご意見をいただきました。空調設備の設置については、先ほども事務局から説明があったとおり、設置に向けた検討段階に入っています。なるべく早く設置していきたいと考えています。

照明設備については、体育館はLED照明に更新が済んでいますので、あとは教室のLED照明の更新を行っていきます。

高田教育委員

コロナ禍で中断されていた地域の祭礼行事、年中行事などの伝統文化事業が再開されていますが、さまざまな課題があるようです。地域の伝統文化に対しては、町としてどのような支援をされていますか。

中山町長

基本的には大きなもので国指定とか、そういったものとなると、国からの補助金が受けられます。稲美町の中には、一般の地域でやっているものに関しては、自治会を通じて補助金を受けることが出来ます。詳しくは事務局から説明いただけますか。

赤松生涯学習課長

稲美町を含む市町職員の福利増進等を図る一般社団法人兵庫県市町職員互助会が、関係市町の伝統文化保存団体及びその支援団体の伝承活動・後継者育成活動等に対し、助成事業を実施しています。

補助の実施は、町を通して推薦することとなり、町では4月の自治会長会の総会において説明し、すでに7つの団体が仮申請していただいています。そのうち、令和7年度は先着

順に3団体（岡西、出新田、印東）を推薦し、このたび互助会から1団体100万円を上限とした助成の決定を受けたところです。

残る4団体については来年度以降に推薦していくことになります。

高田教育委員

採択された3団体の事業はどういった行事なのでしょうか。

赤松生涯学習課長

いずれも秋祭りに関する伝統文化の伝承用の用具、衣装等の整備にあたるもので、岡西自治会では獅子頭を新調されます。出新田自治会は猿田彦の面と衣装等を新調されます。印東自治会では水引幕を修繕するとともに、猿田彦の衣装を新調されます。

高田教育委員

地域のお祭りは地域コミュニティの活性化のために、大変重要な行事です。引き続きの支援をいただきますようお願いします。

中山町長

いじめ防止対策推進条例の策定について、現在どのような取組が進められているのか。また、今後、どのように進めていくのか、事務局から報告をお願いします。

加藤学校教育担当課長

いじめの未然防止や早期発見・早期対応のためには、学校だけではなく、家庭や地域も含めた社会全体で取り組むことが重要であると考えています。

現在、条例の策定に向けて「いじめ防止条例検討委員会」を設置し、学識経験者、学校関係者、警察関係者、地域代表者などで構成し、具体的な条例の方向性や条文案について協議を重ねているところです。

検討にあたっては、児童生徒へのアンケートや生徒会との座談会を実施し、当事者である子どもたちの声を反映させ、実際に効果のある条例として形にできてきたと考えています。そのためにも、国や県の通知、他市町の先行事例も参考にしながら、稲美町に即した実効性のある条例づくりを進めています。

今後は、検討委員会での協議内容を整理した上でパブリック・コメントを実施し、住民の皆さまから幅広く意見を伺いながら、年度末の議会に条例案を上程し、議決をいただきたいと思います。

松田教育委員

いじめは、どの子どもにも起こりうる重大な問題であり、学校現場だけで解決するのは

難しい課題です。いじめ防止に向けて、それを条例化することにより、町全体でいじめを防止し、子どもの命や人権を守るという強い意思を示すことができます。

とりわけ重要なのは、子ども自身が安心して声を上げられる仕組みづくりであり、相談体制の充実や、地域・家庭・関係機関との連携強化が求められます。

条例の実効性を高めるためには、罰則規定ではなく、啓発や支援を柱に据え、教育委員会としても学校と連携しながら、実際に活用できる制度として整えていく必要があります。

中山町長

いじめを発生させないというのが1番大事だと思うのですが、ただ、起こってしまった場合については、まずは、当事者の安全確保はもちろんですし、先ほど松田委員から罰則というお話がありましたが、加害者の子どもたちについてもケアが必要でありますし、全国的にも、まだまだ起こっている事案ですが、これはあってはならないことですが、稲美町で、もしそういうことがありましたら、現場と教育委員会がしっかりと連携しながら対応していきたい、そのために必要な条例だと思いますので、しっかりと作っていききたいと思います。

北谷教育長

いじめ防止条例について、先ほど松田委員と町長も言われたように、これがきっかけとなって、子どもたちが、互いに尊重し合う、子どもたちだけではなくて、私たちが互いに尊重し合うような町づくりに大いに発展し、学校だけの課題ではなくて、みんなの課題として認識し、みんなでそれぞれお互いを尊重し、それぞれの命、人権を守っていこうという、そのような条例にできたらと思いますし、そのための啓発に教育委員会としても努めていきたいと思っています。

中山町長

大変有意義な、意見交換ができました。ありがとうございました。

それでは、次第4.その他に移りたいと思います。

委員の皆様方や事務局を含めて、何かありましたらお願いします。

ないようですので、以上で稲美町総合教育会議を終了いたします。

ありがとうございました。